

佐世保市立小佐々中学校



所在地 佐世保市小佐々町西川内132番地
校長 百津 真人
生徒数 160名
(1年生59名、2年生57名、3年生44名)

〈校訓〉 〈学校教育目標〉

英知 - 自ら進んで学ぶ小佐々中の生徒

信愛 - 心豊かな小佐々中の生徒

活力 - 健康でたくましい小佐々中の生徒

「今」「ここで」頑張る生徒を育てる教育の推進



校訓・学校教育目標

〈英知・信愛・活力〉

小佐々っ子プラン

学力向上プラン



小佐々中応援キャラクター
叶夢くん

☆身につけさせたい力

- 1 未来に向けて人生や社会を切り開く実践的な力
- 2 自然や社会的な事象をとらえ未来や自己を見つめる力
- 3 人との関わりの中で培われる社会性・豊かな人間性
- 4 地域との関わりを通して育まれる地域を愛する力

今年度の重点事項



地域人材の活用・学力向上の取組・小中連携

<取組の内容>

学力向上プラン

☆校内研修と連動した取り組み

「わかる・できる」楽しさを味わわせる

- 授業改善からの教師の指導力向上
- 生徒の学習習慣の確立

(1) 校内研究テーマの実践検証

『学びの場を工夫した授業づくり』～地域教育力を生かした授業づくり～

① 小佐々中学びのスタンダードの徹底

② 提案授業による検証

i 地域人材を活用した授業

- ・【国語・俳句を詠む】
…校長先生をゲストティーチャーに迎えて
- ・【国語・中国語で漢詩を読む】
…地域在住の中国の方をゲストティーチャーに迎えて

ii 小学校への乗り入れ授業【音楽・英語・理科】

- ・【音楽・日本の音階で旋律をつくろう】(小5年生)
 - ・【音楽・卒業式に向けて心を込めて歌おう】(小6年生)
 - ・【英語・桃太郎の英語劇をしよう】(小6年生)
 - ・【理科・中学校へ向けて】(小6年生)
- …どの教科でも、中学校の専門性を生かしたT2として授業に参加。

iii コミュニケーション能力育成に向けた授業



【国語・自分の話す力聞く力をチェックしよう】

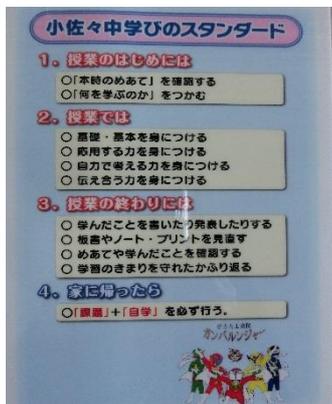
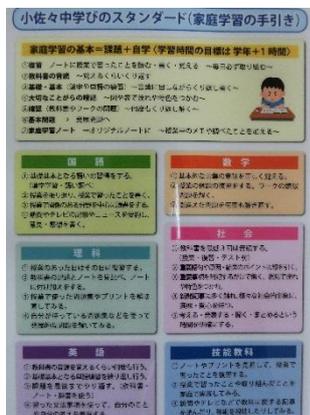
コミュニケーションレベル表を使って、自己評価することで、コミュニケーション力向上の意識を持たせ実践に生かす。



(2) 生徒の学習習慣の確立

① 学習習慣確立のため、家庭学習の内容充実を図る

学習の手引き(下敷き・生徒用)



— 1・2年生に配布

- ・家庭学習を行うときに活用させる。
- ・専門委員会(学習部)の活動として、家庭学習調査に取り組みさせた。自学の内容の幅を広げ、充実させるのに役立った。
- 生徒からは、「家庭学習を始める前の参考にした」「何をしたらいいか迷った時に見ていた」と声があった。

② 生活ノートの活用

今日の振り返りや家庭学習の記録をすることで生活・学習習慣を見直す。

小佐々っ子プラン

☆地域人材を活用した取組

- 地域の教材力を活用
- 地域の人材力を活用
- 地域のネットワークを活用

地域の教育力を生かして 小佐々で子どもを育てる

(1) 小佐々の教材力を生かした取組

＜海洋体験・議場体験・職場体験学習・
地域環境インタビュー・少年水産教室＞

これらの学習は、小佐々の地域性を生かしたものであり、小佐々の豊かな自然や産業といった特性を生かした取組である。特に、今年度は旧小佐々町議場を使って、生徒総会前の学級討議を行った。さらに3年生は市議会を見学した。職場体験学習では、小佐々を中心とした事業所が子どもたちを温かく迎え入れてくださった。



(2) 小佐々の人材力を生かした取組

＜伝統文化学習・学習支援、進路学習(面接指導)＞

小佐々には、伝統文化面において優れた方たちがいらっしゃる。そこで、今年度は伝統文化学習(3年)で、書道・琴・わら縄・将棋の4コースを設けて、講師に地域の方をお招きした。地域の方との交流の中で、伝統文化に親しんだ。10月には、文化祭の中で、講師の方たちのおかげで見事な成果を披露した。

また、高校入試に向けた面接指導において、6人の講師に来ていただき、指導にあたっていただいた。子どもたちを温かく指導し、励ましてくださった。

ほかにも、合唱指導・食育指導・平和学習・人権学習・いのちの講話など様々な場面で、講師を招いて学習を深めた。特に合唱指導においては、学校や地区の文化祭で感動を呼ぶ歌声となった。



(3) 小佐々のネットワークを生かした取組

＜小中連携(三校交流)・乗り入れ授業・PTAとの連携＞

小佐々中校区には、二つの小学校と一つの中学校がある。この三校の交流会を、中学2年生と小学6年生で行う。

4月の入学を前に子どもたちがつながる。中1ギャップが心配される中、学校の様子をいち早く知り、4月からの入学に心躍らせていた。

親子文化交流活動【しめ縄作り・門松作り・もちつき】、PTA農園での野菜作り・あいさつ運動・下校指導、生活習慣調査、学校やPTA活動の様子を知らせる広報活動を通してPTAとの連携によって、子どもたちのよりよい学校生活に向けて活動が行われた。

また、コミュニティ・スクール設立に向けた取組の中で、小中一貫型中学校を目指して、小学校への乗り入れ授業を行った。



4 成 果

地域人材の活用と学力向上を目指した取組であった。学力向上に向けて校内研修の取組と連動した。教師の授業力を向上させることで、子どもたちの学習に向かう姿勢と学びの意欲が増している。その結果が少しずつ見えてきた。教師の意欲も見える。

今年度は、本校が取り組む小中一貫型小中学校を導入したコミュニティ・スクールの設立に向けて、地域と共にある学校になるための取組に力を入れてきた。ポイントは、地域の人材活用と地域との連携である。そこでは、地域の方との距離、さらに小学校と中学校の距離感を縮めてきた。地域の方の温かい励ましの声が増える。新1年生となる6年生の不安の声がなくなる。成果を感じた。学校評価の高い数値が、これらを表わしている。学校に対する生徒・保護者・地域の満足度が今年度も上がっている。また、感想欄に書かれた地域・保護者の声を読んだ時に、さらに特色のある学校づくりを目指し、学力向上の期待にこたえなければならないと感じる。

顕著なものを挙げてみる。

○学校評価から

<成果>

- ・『学校の特色ある教育活動に満足している』・・・**93%** ←90%(前年度) ←88%(一昨年度)
- ・『教師はわかる授業を実践している』・・・**84%** ←83%(前年度) ←80%(一昨年度)
- ・『学校はホームページや学校便り・通信等で情報を公開している』・・・**96%**
- ・『生徒は好ましい交友関係があり、楽しく登校している』・・・**92%**←90%(前年度)

○地域の声から

「教育目標に則った確かな人間教育が実施されているといつも感じている。学力向上に期待。」

<課題>

- 生徒 — 『自分の考えを發表し、わからないことは自分から質問している』・・・**73%**
- 家庭 — 『家庭では、メディア利用のルールを決めている』・・・**73%**
- 学校 — 『学力向上に向けて一わかる授業の実践・生徒の主体的意欲的な学習』
- 保護者— 『メディアのルールを中心とする生活習慣の見直し』
- 地域 — 『地域・保護者・学校の連携による理解と協力』

5 今後の課題

来年度の課題は、生徒の自主性と積極性を学習や生活の場でいかに育てるかという課題に対して、地域・保護者と共いかに取り組んでいくかだと考える。また、学力の向上のためには日々の生活習慣や学習習慣の確立が大切であることを生徒と家庭に実感させる必要がある。学校・家庭・地域が一体になって取り組まなければならないことである。なぜ学ぶのか。なぜ生活習慣を大切にしなければならないのか。家庭生活の改善が学力向上に大きく関わることを示す取組を保護者にP T A活動連携して働きかけていく。

- 学力向上プラン — 「わかる・できる」楽しさを味わわせる
- 小佐々っ子プラン — 地域の教育力を生かして、小佐々で子どもを育てる

この二つの目標をもって、取り組んできた。その目標に向かっている。さらに向上しなければならない。地域・保護者の期待がある。

さらに、コミュニティ・スクールとして、地域と共にある学校づくりに力を注ぐ。これからの小佐々中学校をさらに発展させ、地域と共に育つ学校になる。そうして、子どもと共に生き、子どもの中に生きる教育を目指していく。

